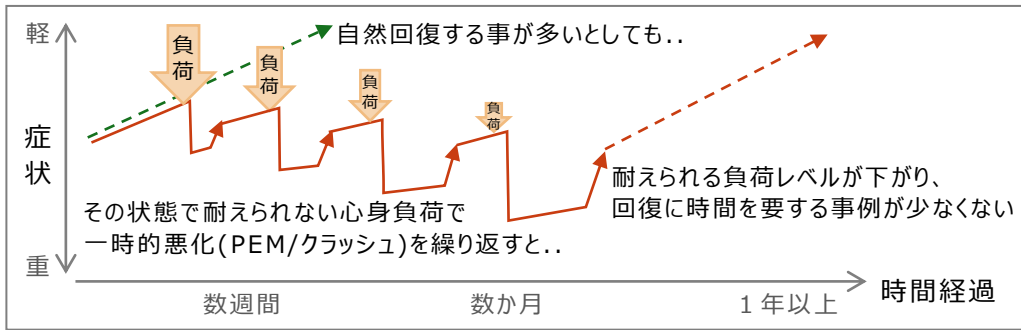


新型コロナ後遺症（・ワクチン長期副反応）の症状の特性と患者への影響・望まれる対応

■回復促進のみならず「悪化回避」が重要

自然回復する事が多く心配し過ぎも影響ありうるが、通常ありえない負荷で、暫く後に突然体・頭・精神の様々な機能に強い支障が生じて暫く継続することがあり、それが繰り返されると、耐えられる負荷レベルと、症状の程度・期間が悪化し、回復に時間を要す事例が少なくない。

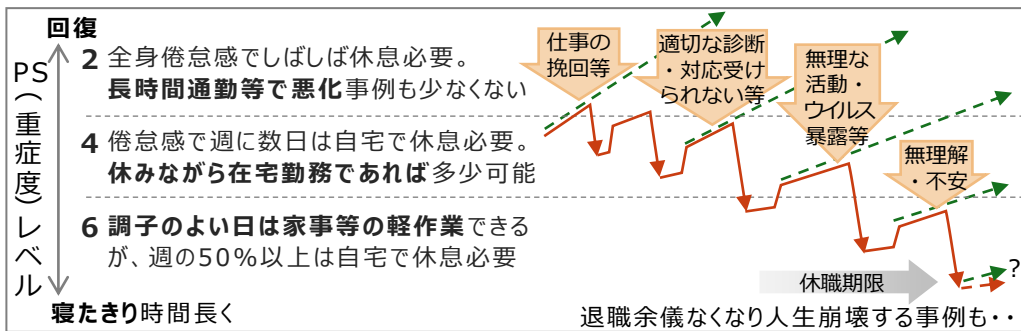
それまでなかった不調が続いている場合、本人に「回復するまでは無理をしないという認識」と周囲も「気のせいだろうなどと決めつけ無理を要することがないような理解」が重要である。



■「理解」を得られ難いことが回復阻害も

症状に個人差が大きく、複数の症状が生じている事も多く、殆どは既存の検査値等で特定が困難で、かつ症状に波があり、支障が強い状態を医療機関や周囲に理解を得る事が困難な事があり、既存の精神的な疾患などに対する対応と同様に扱われ、悪化する事例もある。

必要に応じ安静に休養が取れるよう、近親者の理解はもちろん、会社や学校などの理解を得る為にも、医療機関において診療拒否や安易に心因性等と扱う事がない体制が望まれる。



■分かりやすい有益な「情報」が必要

症状や対応において未だ確証が得られない事も多く、行政も近隣医療機関での除外診断や、必要に応じ業務調整の相談を行う事等を推奨はしているが、限られた調査対象における数値的分析結果や難解な通達などだけでは、具体的な対応に苦慮し、回復に支障生じる事もある。

状況に応じて選択対応や理解を得れるよう、回復や悪化の分かりやすい情報周知が望まれる。

